大好きな私の町

箕島小学校　四年　上田　夢

「じゃんけんポン！勝ったあ。行ってきます。」朝、登校する時の出来事です。

学校までの道には、地いきの見守り隊の方が所々に立ってくれています。夏の暑い日も、冬の寒い日も、雨の日も、朝早くから私達を見守ってくれています。

私は、なんだか学校へ行きたくない気持ちの日があります。でも、オレンジ色のぼうしをかぶったおじさんやけいび服を着ているおじさんに、いつもと変わらず、「おはよう！じゃんけんしよか。」と、声をかけてもらうと、くもっている気持ちがパッと晴れます。「よし、今日もがんばろう。」と思い直します。今度は、私から感じゃの気持ちをこめて、元気な声で「おはよう。」と言いたいです。夏休みが終わり、二学期が始まったら、私からあいさつしよう。

私の両親は共働きです。学校から帰っても

家にいません。だから、毎日おばあちゃんの家へ帰ります。帰り道、おばあちゃん家の近所のおばさんに、

「こんにちは。」

と、あいさつをします。すると、

「おかえり。元気でええな。」

と言ってもらいます。宿題が終わって、外で遊んでいると、花のお世話をしているとなりのおじさんが、

「いつも元気やな。」

と声をかけてくれ、お花の事を教えてくれます。小さい時は、家にお母さんがいる友達がうらやましいと思っていました。でも、今はあまりさみしく思いません。だって、たくさんの人が「おかえり」と声をかけてくれ、みんなに見守ってもらえているからです。

なにげない言葉ですが、「いってきます。」

「いってらっしゃい。」「ただいま。」「おかえり。」などのあいさつは、心が温かくなる言葉だと思います。毎日、おばあちゃんが、

20 × 20

「おかえり。今日はどやったれ。」

と家でむかえてくれます。私は、ほっとした気持ちになります。そして、心が温かくなります。だから、いつも元気に「ただいま」を言うようにしています。

当たり前のようにしてくれている事が、私の安全と安心につながり、心が休まる場所をつくってくれている事に気づきました。私を大きな愛情で包みこんでくれる家族が大好きです。私達を温かく見守って、育ててくれるこの町が大好きです。私が大人になった時、私のふるさとはこんな町だと自まんしたいと思います。そして、私も、心温まる町づくりに、さんかしたいと思います。